

大腿骨転子部骨折患者に対して階段昇降動作の獲得を目標とした一症例

高井 春伽

水無瀬病院 リハビリテーション部 理学療法科

Key words: 大腿骨転子部骨折、階段昇降動作

【背景と目的】

今回、両側変形性股関節症が既往にある左大腿骨転子部骨折に対し Gamma nail 術を行った術後患者を担当した。本人の hope は入院前と同様にエレベーターのない駅を使用し、入院されているご家族の面会に行きたいとの思いがあり階段昇降動作の獲得を目標とした症例を経験したため報告する。患者には発表の説明を行い発表に関する同意を得た。

【症例と介入】

60 代女性、外出中に転倒し X 日に左大腿骨転子部骨折と診断され入院。X+2 日に Gamma nail 術施行、X+6 日より荷重開始。受傷前は屋内外独歩自立しており頻繁に外出されていた。自宅の階段昇降は痛みと動作不安定性により這って昇降されていた。X+22 日より両手すりを使用し 2 足 1 段にて階段昇降練習を開始。評価は患部に NRS1-2 の荷重時痛があり ROM は (R/L°) は股関節屈曲 105/95、足関節背屈 5/10。MMT (R/L) は中殿筋 3/3、大殿筋 3/2、大腿四頭筋 4/4、下腿三頭筋 3/-。大腿四頭筋 (hand held dynamometer 以下 HHD、R/L; kgf/kg) 0.32/0.22。階段昇降動作は横向きでの昇段、後側方向きでの降段。昇段での単脚支持相は短縮、挙上相では体幹側屈し上肢依存著明。降段では単脚支持相から両脚支持相まで性急さが生じている。面会に行く際に利用する駅は利用者数が多く昇降速度が求められることから、前方からの昇降動作獲得を目標とした。階段昇降動作は大殿筋、大腿四頭筋、腓腹筋が重要であると示唆されており、本症例はこれらの筋力が低下していることから代償動作が生じていると考え、これらの筋を中心とした筋力トレーニングを実施した。

【経過及び結果】

X+64 日の退院時評価は NRS0-1 の荷重時痛があり、MMT (R/L) は中殿筋 4/3、大殿筋 4/3、大腿四頭筋 4/4、下腿三頭筋 4/-、大腿四頭筋 HHD は 0.30/0.31 と左側に向上を認めた。階段昇降動作は前方から可能。昇段の左挙上相で骨盤左側方移動、右挙上相で体幹前傾がみられ、降段では左単脚支持相から両脚支持相で体幹・骨盤右側方移動、両側の下降相から両脚支持相にかけて性急さを認めたが階段昇降練習の開始時に比べ代償動作は軽減。その結果、片手すり T 字杖を使用し前型 1 足 1 段での階段昇降動作獲得に至り、退院後に本人の希望である入院中の家族へ面会に行くという hope を達成することができた。

【結論】

本症例は両側変形性股関節症が既往にある転子部骨折に対する Gamma nail 術を施行され、階段昇降動作の獲得を目標とした介入を行った。前方降段に比べ後側方降段は股関節伸展モーメントが増大し膝関節伸展筋、足関節底背屈筋が低下している場合に容易にできる動作と報告されている。大殿筋、大腿四頭筋、腓腹筋を中心とした筋力トレーニングにて筋力が向上したことで前方降段を獲得できた。